※令和４年度以降入学生用

学校番号	２０１

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「世界史探究　新世界史」（山川出版社）						
副教材等	「最新世界史図説タペストリー二十三訂版」（帝国書院） 「新世界史要点ノート　応用編 2025」（啓隆社） 「総合マスター世界史」（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・世界史探究は、語句や年号の暗記で終わらせる科目ではありません。どんな歴史的出来事にも、その背景には色々な人々の営みがあります。教科書数行の出来事の裏に、なぜそのような事象が起こったのか、そしてそこにかかわる人々の選択や葛藤があることに思いを馳せながら、理解を深めてください。
・勉強法の前提としてですが、入念な予習と、授業にしっかり集中して臨むことがまず肝心です。授業の内容をその時間でしっかり理解すれば、復習に多くの時間を割く必要はありません。その為にも、予習する時間を大事にしましょう。そのうえで、わからない部分があれば、担当者に質問してください。
・日々の予習の仕方ですが、教科書を読んで全体の流れを押さえましょう。語句を確認し、問いを持ちながら授業に臨めるよう、予習してください。
・日々の復習の仕方ですが、どのような意図や狙いの授業・取り組みに参加していたか、自分はどんなことを考えていたかを思い出すようにしましょう。語句や説明を再暗記することに時間をかける傾向がありますが、自分の学び方を振り返り、改善していく時間にしましょう。

２　学習の到達目標

(1) 世界の歴史への興味・関心を高め、歴史総合で続けてきた地理的条件や日本の歴史の知識とも関連付けながら理解していきます。
(2) 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ判断力を身につけていきます。また、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きるための歴史的思考力を培います。
(3) 歴史に関する資料を適切に調べてまとめ、資料に基づいて考察した結果を適切に表現したり、議論したりする力を身につけます。
(4) 文化の多様性と現代世界の特質を多角的かつ広い視野から考察し、現代社会が直面する諸課題について、歴史的観点から考察し、主体的な追究を通して認識を深めます。

※令和４年度以降入学生用

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。 ・諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察している。 ・歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論したりする力を培う。	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本または他国の歴史・文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。
評価方法	・定期考査 ・小テスト ・要点ノートおよび板書ノート、プリント	・定期考査 ・小テスト ・考察内容	・活動参加状況 ・自学自習課題 ・発表内容 ・振り返り
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第12章　国民国家と近代民主主義社会の形成	「商業社会と産業革命」 「アメリカ革命」 「フランス革命とナポレオン」 「反動と改革」 「１８４８年の諸革命」 産業革命により技術革新や新しい階級、都市化が起こったことを理解する。 アメリカ独立戦争と歴史的意義を理解する。 フランス革命の背景と契機、過程、ナポレオン台頭の変遷を理解する。 ウィーン体制の理念形成から崩壊に至るまでの経緯について理解する。ロマン主義の思潮やナショナリズム、ブルジョワジーの台頭といった時代観を理解する。	a:産業革命の要因・産業革命によってひきおこされた事象について理解し整理できる。 アンシャンレジーム、革命、19 世紀の循環的不況を理解している。 b:18 世紀の交通の発達が経済を大きく変化させたことやイギリスの植民地政策の転換が起こした影響、革命や人権宣言の意義などを考察している。 c:アメリカの独立フランス革命やナポレオンの諸政策が近代国民国家の諸要素を創出したことについて探究しようとしている。	定期考査 小テスト 要点ノート	定期考査 小テスト 考察内容	活動参加状況 自学自習課題 発表内容 振り返り

※令和４年度以降入学生用

	第13章　新国家の建設と世界市場の形成	「アメリカ合衆国の発展」 「ラテンアメリカとカナダ・オーストラリア・ニュージーランド」 「イギリスとフランスの繁栄」 「クリミア戦争とヨーロッパの再編」 19 世紀のアメリカ合衆国では民主主義の発達、南北戦争、世界最大の工業国化が進展したことを理解する。 ラテンアメリカ、カナダ、オセアニアの独立について理解する。 19 世紀にイギリスがイギリスでは資本主義をけん引したことを理解する。 東方問題やドイツイタリアの統一の動きと国際関係を理解する。	a:19 世紀のアメリカ合衆国の南北格差の状況が整理できる。後発資本主義国がどのようにイギリスに対抗したのか、東方問題とヨーロッパ列強の動きを理解し整理できる。 b:アメリカ合衆国ではヨーロッパと違いなぜ社会主義が拡大しなかったのか、ラテンアメリカでのクリオーリョの果たした役割について考察している。イタリア・ドイツの国家統一に深くかかわった人物の活動について表現している。 c: 民主主義の典型とされるアメリカの政治制度の発達を探究しようとしている。現代のラテンアメリカ諸国の諸問題の起源という視点、ドイツイタリアの統一と 19 世紀のナショナリズムとの関係などから探究しようとしている。	定期考査 小テスト 要点ノート	定期考査 小テスト 考察内容	活動参加状況 自学自習課題 発表内容 振り返り
	第14章　アジア諸地域の動揺	「西アジアの動揺」 「南アジア・東南アジアの動揺」 「東アジアの動揺」 オスマン朝下の独立運動に列強がどのようにかかわったのか、イギリス東インド会社の植民地支配の方法やインド大反乱、反乱後のイギリス政府によるインド統治について理解する。 清朝に対する、イギリス、ロシアの進出と、アヘン・アロー戦争や太平天国の乱と清朝の海禁政策や政治体制に与えた影響について理解する。 日本の開国と明治維新を世界史の中で理解する。	a:オスマン朝から自立をめざした民族やワッハーブ運動やエジプトの近代化について理解している。イギリスによるインド支配への流れや、列強による東南アジア植民地化の内容、清朝に対する欧米諸国の進出の過程について理解している。 b:オスマン朝下の諸民族の自立運動や近代化を比較し、ロシア・イギリスの利害とその影響を考察している。イギリス支配のインド社会や経済にどのような影響があったのか資料を活用して考察している。列強の進出が清朝の対外政策にどのように影響しているか、朝鮮の政変に日本がどのように関係を変化させていったのか考察している。 c：西アジアや東アジアへの「ウェスタンインパクト」への対応の違い、現代のインドが抱える社会問題や宗教間対立についてイギリスの植民地時代がどう影響しているかを探究しようとしている。	定期考査 小テスト 要点ノート	定期考査 小テスト 考察内容	活動参加状況 自学自習課題 発表内容 振り返り

※令和４年度以降入学生用

	第15章　帝国主義と世界	「現代社会の特質」 「帝国主義と列強」 「アジアの民族運動」 第2次産業革命と独占資本の成長、労働運動の展開と、帝国主義国における社会主義運動の展開や国民の政治参加の拡大を理解する。列強の対立がどのように第一次世界大戦に至るのかを理解する。	a:列強による帝国主義の拡大にたいして、トルコやイラン、インドなどのアジア各地において、民族運動が展開したことを理解している。 b:第１次と第２次産業革命の違いについて、英独仏の社会主義政党とロシアのものとでは性格の違いはどこからくるのかについて、ヨーロッパ各国の国民の政治参加の拡大や政府の福祉政策の拡大について、考察している。 c:科学技術の発達と動力、万国博覧会で注目された技術による目覚ましい発展、社会主義者がどのように労働者への働きかけ運動規模を拡大したのかを探究しようとしている。手国主義についての様々な学説を調べ各国の対外進出を比較するなど探究している。	定期考査 小テスト 要点ノート	定期考査 小テスト 考察内容	活動参加状況 自学自習課題 発表内容 振り返り
2学期	第16章　第一次世界大戦	「第一次世界大戦とロシア革命」 「ヴェルサイユ体制と欧米諸国」 「アジアの動向」 第一次世界大戦および戦後アメリカ合衆国が、ヨーロッパとアジア・太平洋地域の国際体制にどのようにかかわったのか、理解する。 第一次世界大戦後、アジアの諸地域での民族運動について理解する。	a:　第一次世界大戦およびロシア革命にいたる過程や戦争の長期化による新兵器の登場や総力戦について理解し、ヴェルサイユ体制・ワシントン体制に関連する条約の内容および戦後のアメリカ合衆国とヨーロッパ、アジア諸地域の民族運動について理解している。 b:第一次世界大戦が長期化したことを総力戦体制の在り方と関連付けて考察し、国際連盟の意義や、民族自決原則が戦後の国際政治に与えた影響について考察している。ロシア革命が東南アジアや中国の民族運動に与えた影響について考察している。 c:　総力戦体制のもと各国はどのような政策をとり、総力戦体制が戦後の政治・社会にどのような影響を与えたのか探究しようとしている。ロシア革命やアジアの経済成長が、第一次世界大戦後の民族運動に与えた影響について探究しようとしている。	定期考査 小テスト 要点ノート	定期考査 小テスト 考察内容	活動参加状況 自学自習課題 発表内容 振り返り

※令和４年度以降入学生用

	第17章　第二次世界大戦と諸地域の変容	「世界恐慌とファシズム」 「第二次世界大戦」 「戦後の世界と冷戦」 「アジアにおける冷戦」 「冷戦の展開」 世界恐慌がおこった原因について把握し、世界恐慌に対する諸国の対応により、ファシズム国家が台頭してきた経緯を理解する。ファシズム国家の勢力拡張のプロセスをたどることでいかに第二次世界大戦を誘発したのかを理解する。第二次世界大戦後の国際秩序の形成過程や東西の冷戦体制が形成される背景を考察し、冷戦がいかに展開し、世界にどのような影響を与えたのかを理解する。	a:欧米諸国と日本の世界恐慌への対応や第二次世界大戦までの過程を理解する。第二次世界大戦後の国際秩序の形成と冷戦の開始から展開までのプロセスを理解する。 b: 世界恐慌がおこった世界的な原因や第二次世界大戦がもっていた複合的で複雑な性格を、俯瞰的にとらえ考察する。第二次大戦後のアジア諸国の独立について、多角的に考察するとともに米・ソを中心とした東西の冷戦体制が形成される背景を考察する。 c: 1930 年代における各国の動向を国民の生活に焦点をあてて探究し、第二次世界大戦における核兵器の使用といった残虐行為など戦争の惨禍に関心を深め、その原因について探究しようとしている。また冷戦によって影響を受けた人々歴史に関心をもち、探究しようとしている。	定期考査 小テスト 要点ノート	定期考査 小テスト 考察内容	活動参加状況 自学自習課題 発表内容 振り返り
	第18章　第三世界の形成と世界経済の動揺	「第三世界自立の模索」 「世界経済の動揺と第三世界の動向」 アジア・アフリカ諸国が形成した第三世界であったが、パレスチナ問題や南・東南アジア諸国での経済危機、ラテンアメリカ諸国の債務問題などがあったことを理解する。	a: アジア・アフリカ諸国が形成した第三世界において不安定要素が山積していたことを理解する。第１次石油危機後の欧米諸国における新自由主義の台頭とアジア・ラテンアメリカ諸国が内包していた政治・経済的矛盾について理解する。 b: 西アジアでイスラーム原理主義が台頭した原因やアジア・ラテンアメリカ諸国に開発独裁の政権が形成された背景について考察している。 c: 第三世界で生じた問題によって発生した難民問題に関心をもち、探究しようとしている。開発独裁政権の日本や欧米諸国とのかかわりついて探究しようとしている。	定期考査 小テスト 要点ノート	定期考査 小テスト 考察内容	活動参加状況 自学自習課題 発表内容 振り返り

※令和４年度以降入学生用

3学期	第19章　今日の世界	「紛争解決への取り組みと課題」 「経済のグローバル化と格差の是正」 「科学技術の高度化と知識基盤社会」 1980年代における米・ソの新冷戦、東欧の民主革命、マルタ会談からソ連崩壊への流れを理解し、冷戦終結後の世界における諸課題や経済のグローバル化について理解する。	a： 1980年代における米・その心霊戦、東欧の民主革命、丸太階段からソ連崩壊への流れを理解し、冷戦終結後の世界についても理解する。グローバル化とそれが抱える課題について理解する。 b: 同時多発テロ以降の「テロとの戦い」が、世界的な問題になっている理由について考察している。アフリカ・ラテンアメリカ・アジア地域における経済的諸問題の原因について考察している c: 冷戦終結以降の世界に噴出した諸課題に関心をもち、その原因や解決手段について探究しようとしている。	定期考査 小テスト 要点ノート	定期考査 小テスト 考察内容	活動参加状況 自学自習課題 発表内容 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度